

## EA776BC-1 (導伝率計)

- 測定範囲…0.0~199.9  $\mu$ S 0~1999  $\mu$ S  
0.00~19.99mS 0.0~199.9mS
- 検出単位 0.1/1  $\mu$ S 0.01/0.1mS
- 精度… $\pm 1\%$ フルスケール
- 使用条件 周囲温度:0~50 $^{\circ}$ C 湿度:最高95%
- 温度補償 手動 10~40 $^{\circ}$ C
- サイズ…180×83×40mm
- 重量…約355g
- 電源…9V電池1個(連続使用 約100時間)
- 1mケーブル付

○ 当製品は手動による温度補償機能についてのポータブルメーターです。測定範囲が広く、様々な用途にご使用いただけます。

- 別売標準液(標準液ははじめから付属していないため)
- |                     |                  |
|---------------------|------------------|
| (1,413 $\mu$ S標準液)  | HI7031 EB776BC-1 |
| (12,880 $\mu$ S標準液) | HI7030           |
| (1,382ppm標準液)       | HI7032           |
| (84 $\mu$ S標準液)     | HI7033           |
| (80,000 $\mu$ S標準液) | HI7034           |
| (5,000 $\mu$ S標準液)  | HI7039           |

○ ご使用になる前に

- ・バッテリーカバーをスライドさせて開け、付属の9V電池を差し込んでください。
- ・ピンの位置に注意しながらソケットに電極を差し込んでください。測定を始める前には必ず校正をとってください。

○ 校正

下記のものをご用意ください。

- ◆ 導伝率標準液(別売 測定する資料と近い値のものをご使用ください。)
- ◆ ドライバー(トリマーを回す際に使用します。)
- ◆ プラスチックビーカーなどの容器

○ 校正手順

1. 校正液に電極を浸します。この時電極の空気抜き用の穴が完全に浸かるようにしてください。電極と液温との温度差があるため、数分待ちます。
2. 電源を入れます。
3. 導伝率・温度切替ボタンを押し、温度表示にします。
4. 校正液の温度を温度計ではかり、温度補償ダイヤルを回して校正液と同じ温度にセットします。
5. レンジ切替ボタンで測定範囲を決定します。(例: 標準液1,413  $\mu$ Sを選ばれた場合、レンジは『1999  $\mu$ S』を選択します。)
6. 校正用トリマーをドライバーで回し、標準液の値になるまで調整します。=校正終了

### 注意事項

- 電極内部に気泡があると、測定誤差が出ますので軽く電極を振って気泡を取り除いてください。
- 校正終了後に使用済みの校正液をボトルに戻さないでください。
- 25 $^{\circ}$ C以外の温度を基準とする場合は、標準液と温度の関係表を参考に、基準とする温度の導伝率に合わせてください。  
(例: 1,413  $\mu$ Sの標準液を20 $^{\circ}$ C基準で使用する際は1,278  $\mu$ S)

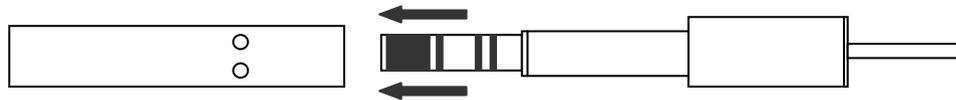


## ○ 測定方法

1. 測定子量に電極を浸します。
2. 電源を入れます。
3. 導伝率・温度切替ボタンを押し、温度表示にします。
4. 資料の液温を測定し、温度補償ダイヤルを回して、資料と同じ温度にセットします。
5. 導伝率・温度切替ボタンを押し、導伝率表示にします。
6. 液晶表示が、資料の導伝率値に合わないレンジを示している場合は、レンジ切替ボタンで測定レンジを変えてください。
7. 表示が安定するまで数分待ちます。＝測定完了
  - 表示が『1』と出る場合、測定範囲以外であることを示します。レンジを変更してください。
  - 測定終了後は電極を水道水で良く洗浄してください。
  - 電極内の気泡を充分に取り除いてから測定してください。

## ○ 電極のメンテナンス

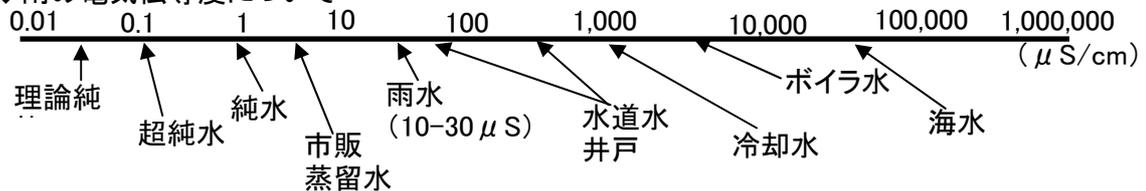
- 測定及び校正終了後には、電極を良く水道水に浸けてから、PVCスリーブを外し、ステンレス電極リングを柔らかい布等で拭き取ります。
- スリーブを元に戻す時は、指し込む方向を間違えないようにご注意ください。(下図参照)
- スリーブ部はPVC製ですので、高温下での使用はしないでください。50℃以上の温度での使用は電極リングを傷めますので、電極の交換が必要になります。



## ○ 電池交換

本品は電池残量がわずかになると『v』表示が液晶に表れるようになっていきます。本体裏の電池蓋をスライドさせ、新しい9Vアルカリ電池をいれてください。

## ◆ 雨の電気伝導度について



雨は含有する電解質の多少に応じて電気伝導率が異なります。すなわち、電解質が多ければ電気抵抗が小さいため電流を通しやすく、反対に電解質が少なければ電流を通しにくい性質があります。したがって、水の電気伝導率は電解質濃度の指標となります。

水温が上昇すると電気伝導率が増加するため(1℃の上昇で約2%増加) 25℃における電気伝導率表示が通例となっています。

\* 東京都内の水道水の伝導率値は平均して150～300 μS/cmの間にあります。同じ水道水でも水源の違いで名古屋などは非常に低く80 μS/cm前後しかありません。

\* 河川の上流水では50～100 μS、下流水では200～400 μS程度ですが、上流のきれいな川でも温泉や鉱泉の水が入る川は高い値になります。